

序論)

みなさんはこのような祈りをする人をどう思うでしょうか？

「神さま、神さまのみ心を私に教えてください。

神さまの義を悟り、それを実践できるようにさせてください。

また、間違っているところ、御心にそぐわないところがあるならば、

神さまが私をさばき、私を正してください。

私は、ただただ神さまの側を歩むことを望んでいます。」

もし、こういう祈りを毎日している人がいたらどうでしょうか。しかも、断食をしながらいつも神さまに祈り求めていたとしたらどうでしょう。「信仰深く、敬虔な人だな」と思わないでしょうか。

今日の箇所【主】に背いていると断罪されているイスラエルの人々が、まさにこのような祈りをしていました。一見するととっても信仰深い人のような祈りをしていたイスラエル人たちをなぜ神さまは断罪されたのでしょうか。

彼らの過ちを通して、【主】が私たちに求めておられる本当の祈り、本当の礼拝について考えていきたいと思えます。

1) イスラエルの偽善的な断食状況

(ア) イスラエルの罪の重さ

まずは1節を読んでみましょう。

58:1 「精一杯大声で叫べ。角笛のように声をあげよ。わたしの民に彼らの背きを、ヤコブの家にその罪を告げよ。」

神さまは、イスラエルの罪を断罪するために「精一杯の声、角笛のような声をあげよ」と言われています。私たちが子どもを叱る時、時に大きな声を出したりしますが、なぜ大きな声をあげるかということ、それが許し難いことだったり、重大なことだったり、何回言っても言うことを聞かない時ではないでしょうか。

神さまにとってイスラエルの人たちの偽善的な断食は大声をあげてしまうほど、許し難いことだったのです。

(イ) イスラエルの振る舞い

実際、【主】の目に断食している時のイスラエルの人たちの姿はどのように見えて

いたかという、2節のようでした。

58:2 このわたしを、彼らは日ごとに求め、わたしの道を知ることを望んでいる。義を行い、神の定めを捨てたことのない国のように、彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを望んでいる。

すごいですね。いつも【主】を求め、【主】の道を望み、義を行い、正しい裁きを求め、【主】の近くにいることを望んでいる。

そのように振る舞っているように見える断食を彼らはしていたのです。

これはまさに、最初に私がいったような祈りを彼らは断食をしながらしていたということでしょう。

(ウ) イスラエルの実情

ところが、そのイスラエルの人たちの断食の現実はどうだったかという、【主】を求める断食とは程遠い断食だったようです。3節から一節ずつ見てみましょうか。

58:3 『なぜあなたは、私たちが断食したのに、ご覧にならず、自らを戒めたのに、認めてくださらないのですか。』見よ。あなたがたは断食の日に自分の好むことをし、あなたがたの労働者をみな、追い立てる。

彼らは非常に立派なお祈りをしながら、断食をしていましたが【主】に認めてもらえていないことを不満に思っていました。つまり、彼ら自身、自分たちの断食は【主】に認められるだけの立派なものだと思い込んでいたということです。

ところが、実際、彼らが断食をしていた日に彼らがやっていたことは何かということ「自分の好むこと」と「労働者を追い立てる」ことだったのです。

祈りの中では「神さまの道を示してください」と言いながら、実際には神さまの御心を実行するのではなく、自分のやりたいことをやっていた。つまり、言っていることとやっていることが一致していなかったのです。

また、「労働者を追い立てる」というのは、自分は断食の祈りをするからといって働くことを放棄し、自分が雇っている奴隷や召し使いには自分がやるべき仕事をも押し付けて、その上で彼らが得た利益を搾取するようなことをしていたと考えられます。

実際、神さまのみ心を求めるために長期間の断食をしようとする、体が弱ったりしますから、周りの人の協力が必要になります。でも、この時のイスラエルの人たちの振る舞いは本当に【主】を求めて長期間断食をするから、そのための協力を求めているのではなくって、断食は【主】を求めてではなくあくまでも自分が信仰深

い人であることのアピールであって、本当の意味で自分の利益を手放して【主】を求めるものではなかったのです。だから、自分が断食して休んでいる分、労働者たちに働くことを求め、その利益を奪っていたのです。

さらに 4 節を見ると、彼らは断食をしながら喧嘩や争いをしていたことが分かります。

58:4 見よ。あなたがたが断食をするのは、争いとけんかのためであり、不当に拳で殴るためだ。あなたがたが今のように断食するのでは、いと高き所に、その声は届かない。

なぜ、彼らが喧嘩をしていたのかは分かりません。断食でお腹が空いてストレスになっていたからでしょうか。それとも、自分の優秀さを示そうとするあまりに、他の人にひどい振る舞いをしていたからでしょうか。

どちらにしろ、彼らは敬虔な信徒として【主】を求めている断食をしているように振る舞いながら、心の中には平和がなく、寧ろ他の人を打ち倒すことを求めているのです。それでいて、彼らの断食している姿は 5 節にあるように「葦のように頭を垂れ、粗布と灰を敷き広げて」いたのです。

これは聖書的には心から神さまの前にへりくだり、悔い改めている姿です。でも、実際には労働者からの利益を求め、他者を陥れることに夢中になっているのがイスラエルの人たちの断食でした。

当然、このような断食など、【主】に喜ばれるはずがありません。

【主】は、形だけ謙っているフリをしていても喜ばれないし、口先だけ【主】を求めているような祈りをしていても喜ばれないのです。

では、どうしたらいいのでしょうか。心からへりくだり、心から【主】を求める祈りをすればいいのでしょうか。

実際、多くの人がこの箇所から「彼らは形だけ立派で心が伴っていなかったからだめだったのだ。心からの断食が大切なのだ」と言っています。

でも、本当にそうでしょうか。心の中だけを変えれば【主】が喜ばれる断食や祈りになるのでしょうか。今日の箇所を見るとどうもそうじゃないように思います。

2) 本当の断食

(ア) 【主】が求めている断食

6 節と 7 節には【主】が求めておられる断食が書かれています。読みましょう。

58:6 わたしの好む断食とはこれではないか。悪の束縛を解き、くびきの縄目をほど

き、虐げられた者たちを自由の身とし、すべてのくびきを砕くことではないか。
58:7 飢えた者にあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見てこれに着せ、あなたの肉親を顧みることではないか。

みなさん、この6節と7節は心の中の変化を教えてくださいか？ いいえ、具体的な行動が書かれています。

6節は、不正な支配や拘束を受けている人たちを解放するように教えており、7節では、貧しい人を、パンを与えたり、家に招いたり、服を与えたりすることで助けることと、家族から目を離さないことを教えてください。

私たちの世界には不当な支配を受けている人たちがいます。それはセクハラやパワハラといったハラスメントを受けている人たちであったり、少ない賃金で賃金以上の労働を強いられている人たちであったり、DVや虐待を受けている人たちです。神さまはそういった人たちに本当の自由を与えなさいと言われていたのです。

みなさん、ハラスメントをなくしたり、不当な労働環境をなくしたり、DVや虐待を受けている人たちを助けるためにはどうしたらいいでしょうか。まずは、そういう人たちの声を聞くことが大切でしょう。でも、最終的には社会制度や弱い人たちの環境を改善しなければなりません。

神さまはそのような社会的な構造改革を含めて、不当な支配を受けている人たちを解放することが、本当の断食だと言われていました。

また、7節の貧しい人たちを助ける教えや、家族を顧みなさいという教えも、私たちが今までイメージしていた断食とはかけ離れている教えです。

少なくとも、私はこれを見て、断食に対する価値観が変わりました。私は断食とは食べたり飲んだりすることをやめて、祈りに集中し、神様のみ心を求めるのが断食だと思っていました。そして、牧師に献身する時とかは実際にそのような断食をしてきました。

でも、神さまが喜ぶ断食はそうではなく、不当な支配を受けている人や貧しい人を具体的に助けることであり、家族を大切にすることだと教えてください。

7節の「肉親を顧みる」とは、ヘブル語を直訳すると「肉親を隠さない」となっています。家族だから、自分の近くにいる人だから後回しにしてしまう。いない人のように扱ってしまう。そういうことがあるのではないのでしょうか。

でも、貧しい人を助け、家族をよく見ていることこそ、【主】が喜ぶ断食だと言われていています。

ご飯を食べずに祈っていれば断食、飲み物を飲まずに祈っていれば断食というわ

けではないのです。寧ろ、自分が受け取れるものを受け取らずに、弱い人、助けが必要な人、見るべき家族をよく見ていくことが、【主】が喜ぶ断食なのです。

私はこれを見て、私は【主】が喜ぶ断食をしていなかったと悔い改めさせられました。【主】が弱い人、貧しい人を助けることを求めておられるのは、分かっていたのに、それを差し置いて、「神さま、御心を教えてください」と祈り、実際には何も行動しない。そういう自分であったことに気付かされました。

みなさんは、どうでしょうか。

(イ) 本当の断食に対する祝福

自分が受けるべきものを受けずに、人を助けるということは簡単なことではありません。でも、神さまはそれをする時に神さまからの祝福があることを語っておられます。それが8節から12節。ちょっと長いので私と皆さんで交互に読みましょう。

58:8 そのとき、あなたの光が暁のように輝き出て、あなたの回復は速やかに起こる。あなたの義はあなたの前を進み、【主】の栄光があなたのしんがりとなる。

58:9 そのとき、あなたが呼ぶと【主】は答え、あなたが叫び求めると、『わたしはここにいる』と主は言う。もし、あなたの間から、くびきを除き去り、虐げの指をさすことや、邪悪なことばを取り去り、

58:10 飢えた者に心を配り、苦しむ者の願いを満たすなら、あなたの光は闇の中に輝き上り、あなたの暗闇は真昼のようになる。

58:11 【主】は絶えずあなたを導いて、焼けつく土地でも食欲を満たし、骨を強くする。あなたは、潤された園のように、水の涸れない水源のようになる。

58:12 あなたのうちのある者は、昔の廃墟を建て直し、あなたは代々にわたる礎を築き直し、『破れを繕う者、通りを住めるように回復する者』と呼ばれる。

私たちが断食の祈りをする時とはどういう時でしょうか。神さまに進路の導きを求める時、神さまに助けてほしい何か重大なことが起こった時、罪を犯して神様の赦しを求める時、そういう時に私たちは断食をします。

でも、神様はそういう時こそ、断食をしつつ、人々を助け、支えていくと、(8節表示) 神様からの光が与えられ、回復が起こり、神様の義がその人を進むようになると言われます。

更に(9節表示) 9節を見ると、そのように人々を助けながら、【主】を求めると、【主】は「わたしはここにいる」と答えてくださると約束してくださっています。みなさん、祈っても、祈っても神様のみ心が分からない。神様が自分の祈りに答えてくださらない。神様が自分を助けてくださらない。そういう風に思うことはないでし

ようか。それは私たちが、神さまが求めておられる断食をしていないからです。

【主】を求める時こそ、【主】のみ心に従って人々を助けるのです。そうすると、【主】は光を与え、回復を与え、御心を示してくださるのです。なぜでしょうか。

それは【主】が私たちに（12節表示）「破れを繕う者」になることを望んでおられるからです。

【主】のみ心を知りたいと思っておられる皆さん、【主】は皆さんを通して、この世の破れ、この世の壊れているところを直したいと思っておられるのです。

弱い者が不当に支配され、貧しい者に助けが差し伸べられることがなく、実の家族にさえ目を向けない世界、この世界を神さまは変えたいと思っておられるのです。

みなさんは、この【主】のみ心に応える生活をされているでしょうか。

3) 本当の安息日

さて、今日の箇所最後の13節、14節には【主】が求めておられる安息日について書かれています。

(ア) 【主】が求めている安息日

まずは、13節を読んでみましょう。

58:13 もし、あなたが安息日に出歩くことをやめ、わたしの聖日に自分の好むことをせず、安息日を『喜びの日』と呼び、【主】の聖日を『栄えある日』と呼び、これを尊んで、自分の道を行かず、自分の好むことを求めず、無駄口を慎むなら、

神さまは、どのように安息日を過ごすことを求めておられますか？箇条書きにすると

- ・ 出歩くのを止める
- ・ 自分の好むことをしない
- ・ 安息日を喜びの日とする
- ・ 安息日を栄えある日とする
- ・ 安息日を尊ぶ
- ・ 自分の道をいかない
- ・ 自分の好むことをしない（2回目）
- ・ 無駄口を慎む

となります。要約すると自分中心の行動をやめて、安息日を喜んで大切にすることでしょう。

これもみなさんどうでしょうか。自分の都合を優先しないで、神さまを礼拝できること、神さまと向き合えることを喜び、これはとっても名誉なことだと思って大切にしておられるでしょうか。

みなさん、【主】を礼拝できるというのは本当に喜びであり、栄えであり、大切なことです。私たちはここで「自分の好むことをしない」ということが繰り返し強調されていることに注目しなければいけません。

【主】を尊ぶということは、このように優先順位を自分都合を優先することから神さま中心に入れ替えることなのです。

(イ) 本当の安息日に対する祝福

神様は、神さまを一番にする礼拝者に 14 節のような祝福の約束をしてくださっています。

58:14 そのとき、あなたは【主】をあなたの喜びとする。わたしはあなたに地の高い所を踏み行かせ、あなたの父ヤコブのゆずりの地であなただを養う。——【主】の御口がそう語られる。」

みなさん、私たちが【主】を喜ぶ時、【主】も私たちのことを喜んでくださるのです。そして、神の国に導き、私たちを養ってくださる。それが【主】の約束です。

【主】は、【主】を愛する者を愛してくださるのです。

結論)

皆さん、今日のイザヤ書 58 章の箇所から、私たちは【主】が求める真の礼拝、真の断食、そして真の安息日について深く考えさせられました。

イスラエルの人々は、熱心に祈り、断食し、礼拝を捧げていたように見えました。しかし、【主】は彼らの偽善的な姿を見抜き、「精一杯大声で叫べ」と、その罪を厳しく指摘されました。彼らは口先では神を求めながら、実際には自分の欲望を満たし、弱い者を虐げ、争い、不当な利益を貪っていたのです。

私たちは、このイスラエルの人々の姿を他人事として見過ごすことはできません。私たちもまた、気づかぬうちに、形式的な信仰生活に陥り、自己満足に浸っていることがあるからです。

今日のメッセージを通して、私たちは以下の 3 つを覚えたいと思います。

1. 【主】が喜ぶ断食とは、愛の行動を伴うもの

【主】が求める断食は、単に食事を断つことではありません。それは、自分の欲望を抑制し、自分自身を謙り、具体的な行動をもって、不正な支配を受けている人を解放し、貧しい人を助け、家族を大切にすることです。私たちが【主】を求める時、同時に、困っている隣人に手を差し伸べることこそ、【主】が喜ばれる断食なのです。

2. 【主】が喜ぶ礼拝とは、自分中心ではなく神中心

私たちが安息日をどのように過ごすか、それは私たちが【主】をどのように見ているかを映し出す鏡です。神様を礼拝するということは、自分の都合や欲望を後回しにし、【主】との交わりを喜び、大切にすることです。神様は、私たちが【主】を第一にするとき、私たちが喜んで受け入れ、祝福を与えてくださいます。

3. 【主】が求めるのは、変革された心と行動

【主】は、形式的な信仰生活ではなく、心からの悔い改めと、具体的な行動を伴う信仰を求めています。私たちが、社会の不正を正し、弱い者を助け、家族を愛するとき、私たちは【主】の光を輝かせ、この世の破れを繕う者となるのです。

皆さん、【主】は私たち一人ひとりが、世の光、地の塩となることを願っておられます。今日、この場所から、私たちが形式的な信仰生活を脱ぎ捨て、【主】が喜ぶ生き方をしていきましょう。

私たちには、まだまだ未熟なところがあり、完璧な行いはできません。しかし、【主】は私たちの心が、【主】に向いていることを喜んでくださいます。ですから、私たちは今日学んだことを心に留め、【主】の愛に応える生き方をしていきましょう。

お祈りします。